



附小のくらし

本校では、附小のくらしを以下の考え方に基づいて、子ども達に指導しています。

どのような状況であっても、自分の生活を自分でコントロールする力や態度と、どのような状況であっても、みんなにとってよりよい生活を考え、そのために自分ができることをする力や態度を育む。「どのような状況であっても」とは、全教育活動のことである（登下校、朝の会、帰りの会、タイム1～6、休み時間、給食、清掃、放課後）。

附小のくらしは、附小生として、生活する上で守る必要があるきまりである。きまり一つ一つに意図があり、子ども達の安全や健康を守ったり、附小として大切にしたい理念を伝えたりするためのものである。内容は、最低限に留め、必ず守り切らせるべき内容としている。

2023 年度学校懇談会で附小のくらしについてご説明させていただいた時に、ある保護者の方から次のようなふりかえりをいただきました。

家で子どもにこのように言われました。

「赤信号は止まれの合図なのに、守っていない大人がいる。私はしっかりルールを守っているのに…。先生や親はルールを守りなさいと言うのに、そう言っている大人の方がルールを守っていない。」

先生はどのように子どもに話されますか。

赤信号は「進んではいけない。」ということは、子どもから大人まで理解しているきまりですが、このきまりを守らない人が一部いることも事実としてあるかと思います。「急いでいるから」や「周りの人もやっているし」など、知識としては分かっているけど、自分の都合や人が元来持っている人間としての弱さの部分がきまりを守ることを妨げていると考えられます。では、信号機のきまりを守らない人がいるのならば、信号機は必要ないのでしょうか。信号機には、交通事故の防止、交通流の円滑化といった役割があり、きまりを守らない人が続出した時には、交通事故が多発し、大きな問題になることが考えられます。信号機が導入された当時、アメリカでは信号機の色が変わるまで待つことに苛立つ人が増え、交通マナーが悪化したことが社会問題となり、車のクラクションを鳴らせば音が変わる信号機が開発されたそうです。しかし、このことで車のクラクションによる騒音問題が新たな社会問題となってしまいました。今では、押しボタン式や車と歩行者の分離式といった環境にあった様々な信号機が開発され、守るべき最低限のきまりとして、社会のみんなにとってよりよいものに進化してきました。

附小のくらしも必ず守りきる最低限のきまりとして毎年修正されながら現在の形になってきています。附小のくらしに基づいた指導をする際には、2つのことを大切にしています。

1つ目は、「きまりの内容に関する意味」についてです。これは、きまりには必ず意図があり、きまりが守られないことによって、自分やみんなの安全や健康が守られないことがあるということです。附小のくらしの中に「けが防止のために、校舎内で走ったり、遊んだりしません。」という記載があります。「けが防止のため」という意図があり、それが守られないことによって、自分だけでなく、附小のみんなに危険が及ぶことがあります。「校舎内を走ってはいけない」ということは、子ども達も知識としては分かっていることです。だからこそ、子どもに「廊下を走ってはいけません」と伝えるだけではなく、子どもに指導する際には、「なぜこのきまりがあるのか」「みんなが廊下を走っているとどうなるのか」という「きまりの内容に関する意味」についての指導を行い、みんながきまりを守るからこそ実現される安心・安全な状態について考え、みんなでその状態を実現し、その利益を享受しようとしていく態度の育成が重要だと思います。

2つ目は、「ルールの枠組みに関する意味」についてです。これは、きまりを守りきる指導をしないということは、

きまりを守るべきか否かの判断基準を子どもに任せることになり、学校として目指す子ども達の安全や健康の担保、そしてきまりを守ることの重要性や教育の理念の共有が難しくなってしまうということです。先日国語の学習中に一生懸命ノートを書いている子どもがいました。しかし、その子はボールペンを使用していました。その子どもに「何でボールペンを使っているの」と尋ねると、「書きやすいから」という答えが返ってきました。これは、ボールペンを使ってもよいその子なりの判断基準だと考えました。そこで、その子どもと一緒に附小のくらしを確認し、「学習では鉛筆を使います。」の意味を考えました。「間違えたときにボールペンは消せないけど、鉛筆は消せるから」とその子は「きまりの内容に関する意味」を自分なりに解釈しました。さらに、「私が、ボールペンを使っていると、みんなもボールペンを使っていると勘違いをしてよくない」と続けました。この子は、学習用具や持ち物の判断を自分勝手にすることによって生じる問題も同時に理解しているようでした。このように、きまりについての判断基準を一人一人の判断基準に任せるのではなく、教師が附小のくらしに基づいて適宜対話的に指導を行うことによって、学校としてのきまりを守り、みんなにとってよりよい学校生活につなげていくことを目指しています。

このような2つの点を大切に附小のくらしに基づいた指導を行っていき、子ども達が様々な集団の中でどんな時でも「きまりを守りたい」そして、「みんなで安心した生活を実現したい」と考える態度を養っていきたいと考えています。どうしても、子ども達は「守っていない人がいるのに、何で自分が守らないといけないの」ときまりについて捉えがちですが、その都度教師と保護者が同じ方向を向いて、粘り強く支援していくことがとても重要になると考えています。そうすることによって、「どのような状況であっても」自分の生活をコントロールし、みんなにとってよりよい生活を考え、そのために自分にできることをしようとする態度や力を子ども達に養えると考えています。今後とも子ども達のよりよい成長に向けてご協力よろしくお願い致します。

<8月の行事予定>

日	曜	8月の行事予定	9月の主な行事予定
1	木		3日(火) クラブ活動①
2	金		4日(水) 宿泊学習説明会(6年)
3	土		12日(木) 幼小合同避難訓練
4	日	AUS 訪問団派遣	13日(金) なかよし班遠足
5	月	AUS 訪問団派遣	弁当日
6	火	AUS 訪問団派遣	16日(月) 敬老の日
7	水	AUS 訪問団派遣	18日(水) なかよし班遠足予備日
8	木	AUS 訪問団派遣	弁当日
9	金	AUS 訪問団派遣	20日(金) 教育実習終了
10	土		23日(月) 振替休日
11	日		24日(火) クラブ活動②
12	月		25日(水) 保護者アンケート配布
13	火		26日(木) 参観日
14	水		
15	木		
16	金		
17	土		
18	日		
19	月		
20	火		
21	水		
22	木		
23	金		
24	土		
25	日		
26	月	12:00 下校	
27	火	12:00 下校 教育実習開始	
28	水	12:00 下校	
29	木	12:00 下校	
30	金	給食開始	
31	土		

< 7月の行事予定 >

日	曜	7月の行事予定	8月の主な行事予定
1	月		26 日 (月) 12:00 下校 27 日 (火) 教育実習開始 12:00 下校 28 日 (水) 12:00 下校 29 日 (木) 12:00 下校 30 日 (金) 給食開始
2	火		
3	水		
4	木		
5	金		
6	土		
7	日		
8	月		
9	火	宿泊学習説明会 (5 年)	
10	水		
11	木		
12	金		
13	土		
14	日		
15	月	海の日	
16	火	給食終了	
17	水	12:00 下校	
18	木	12:00 下校	
19	金		
20	土		
21	日		
22	月		
23	火		
24	水		
25	木		
26	金		
27	土		
28	日		
29	月		
30	火		
31	水		